

顧問・総代
世話人
氏子崇敬者
殿

令和五年一月十一日
諏訪神社社務所

建国祭のご案内

寒き厳しき折、皆様方におかれましては、益々々清栄で公私共に活躍の事と存じます。

つきましては、皇紀二六八三年、西紀二〇二三年にあたり日本国の躍進と世界人類の繁栄を
祈念する建国祭を左記の如く執行いたします。

記

一、日時 令和五年二月十一日（土）午前十時

一、場所 諏訪神社

一、祭事 建国祭

※二月三日は節分です。
午後一時より先着一〇〇名に福豆を授与します。



節分とは立春の前日をさしますが、節分という語は立春だけに限らず立夏、立冬、立秋の前日をさし四季の節目を意味していた言葉でした。つまり節分は一年に四回あったわけですが旧暦では立春が年の始まりにあつたことから、この節目が特に重要視されていつしか節分といえば立春の前日をさすようになったのです。節分には災厄や邪気を払う行事が行われますが、その代表的なものに「豆まき」があります。

年男が「福は内 鬼は外」と唱えながら煎った大豆をまいて鬼を払うこの行事は中国の明の時代の習慣を室町時代に取り入れたといわれています。

かつては豆まきを「追儺」「鬼遣らい」といい、宮中の年中行事の一つでした。舎人が扮した疫鬼を追い払うことにより災厄を払い除くというこの儀式が次第に民間に伝わっていったのです。